

第42回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 平成30年9月26日(水) 18時30分～20時10分

2 会 場 千城台公民館

3 出席者

(1) 委 員 21人 *欠席 1人(佐藤委員)

*代理出席 2人(富澤委員⇒代理:大八木氏)

(清水委員⇒代理:神谷氏)

(2) 事務局 5人 *教育委員会 企画課 伊原課長、望月主任管理主事、岩脇管理主事、
吉田主任主事、宇野澤主任主事

(3) 傍聴者 15人

4 報告・議題

(1) 【報告1】「統合に関する要望書」の教育長提出

(2) 【報告2】統合の決定

(3) 【報告3】前回協議会以降の動き(2校連絡会等)

(4) 【議題1】統合準備会

(5) 【議題2】今後の協議の進め方(跡施設活用検討)

(6) 【議題3】次回開催日時・場所

5 会議資料

(1) 平成30年度千城台地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿

(2) 資料1:「千城台北小学校と千城台西小学校との統合に関する要望書(写)」

(3) 資料2:「記者発表資料:千葉市立千城台北小学校と千城台西小学校の統合について」

(4) 資料3:「統合の周知文:千葉市立千城台北小学校と千城台西小学校の統合について」

(5) 資料4:「2校連絡会の概要について」

(6) 資料5:「北小と西小、南小と旭小の統合準備会について」

(7) 資料6:「今後の協議について(跡施設活用検討)」

6 議事の概要

(1) 【報告1】「統合に関する要望書」の教育長提出

事務局が資料1を基に、正副会長が8月20日に教育委員会を訪問し、「統合に関する要望書」を教育長へ提出したことについて説明した。

(2) 【報告2】統合の決定

事務局が資料2を基に、9月13日に開催された教育委員会会議において統合が決定され、同時に新聞発表されたことについて説明した。また、資料3を基に、統合の決定について千城台地区の小中学校の保護者や関係地区の住民に配付する周知文について説明した。

(4) 【報告3】前回協議会以降の動き(2校連絡会等)

事務局が資料4を基に、北小及び西小では9月27日に2校連絡会を開催する予定であること、

南小及び旭小では9月18日に2校連絡会を開催したことを説明した。

(5)【議題1】統合準備会について

事務局が資料5を基に、北小と西小、南小と旭小それぞれに統合準備会を組織し、統合に向けた準備を進めることについて確認した。

(6)【議題2】今後の協議の進め方（跡施設活用検討）について

角田会長が資料6を基に、跡施設活用について協議して要望書を提出する新しい組織を立ち上げることと、そのメンバー構成について説明し、原案どおり合意された。

(7)【議題3】次回開催日時・場所について

本協議会が第42回を以て最後の開催となったことから、議事から割愛された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶（角田会長）

本日はご多用のところ協議会にご参加いただき御礼申し上げます。この地元代表協議会は、平成22年の2月に発足され、今月で8年半が経過するが、その間委員の改選等があるが、議論がなかなか進まない時期もあったが、皆様のご理解・ご協力のもと、昨年には南小と旭小の統合が決まり、その一年後となる今年の3月には、北小と西小の統合が決まったところである。これも参加していただいた委員のみなさま、またPTA及び傍聴席の方々の力添えがあって成し遂げられたものである。そのなかでもとりわけ、2校連絡会を設置して、お互いの学校を行き来したり、PTAのみなさんがお互いに話し合いの場をもったりしていただいた。8年もの年月が過ぎたが、その間もこの地域において当初の皆さんの思いである「子どもたちのために」というこの一つの思いに向けて色々な議論を交わしてきた。

ようやく今年の3月をもって2校が北小と旭小の位置で統合することが決定され、先月には、正副会長3名で千葉市教育委員会教育長へ統合に関する要望書を提出してきたところである。

この報告については、この後事務局から説明があると思うが、2校の統合新設校ができることが決まったことで、今後は子どもたちのためにという視点を基にしながら、子どもたちが楽しく学校に通うことができるような良い環境を作るための会議を進めていく。その中で、学校関係者のみなさんには力を注いでいただきたい。この会議も8年半経過したが、ほぼ当初からいる委員は5名となった。鶴岡委員、石原委員、佐々木委員、両副会長の5名の方には、8年半の間度々委員の改選があり、その都度前の議論の内容を説明しなければならず、ご苦労もあったと思う。ようやく千城台地区の学校適正配置がまとまったところである。

本日は42回目の協議会となるが、今回をもって学校の適正配置に関する議論は最後になるのではないかという思いで来たので、今日もご協力をお願いしたい。

(2) 報告

報告① 「統合に関する要望書」の教育長提出について

〈山崎議長〉 まず、報告（1）について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 資料1：「千城台北小学校と千城台西小学校との統合に関する要望書（写）」をご覧ください。先ほど会長のご挨拶にもあったように、8月20日に角田会長、大澤副会長、山崎副会長に教育委員会までお越しいただき、磯野教育長にこの要望書を提出していただいた。この要望書に関しては、前回の協議会で合意いただいた要望書となっている。後ほどご説明するが、この要望書を基にして、両校の統合について9月の教育委員会会議に提案させていただいた流れとなっている。

〈山崎議長〉 ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈委員一同〉 質問等なし。

報告② 「統合の決定」について

〈山崎議長〉 次に報告（２）について、事務局から資料の説明をお願いします。

〈事務局〉 資料２：「記者発表資料：千葉市立千城台北小学校と千城台西小学校の統合について」をご覧ください。ご提出いただいた統合に関する要望書を受けて、９月１３日に開催された教育委員会会議において、北小と西小の統合について議題に挙げ、議決された。その決定を同日、記者発表した際の資料がこれである。当日も記者が教育委員会に来庁しており、翌日に千葉日報、読売新聞に統合の記事が掲載された。記者発表資料にあるように、統合に関する要望書が、地元代表協議会から教育長へ提出されたことを受けて、平成３０年千葉市教育委員会会議第９回定例会において、小学校の統合を決定したことから、次の事項について発表している。

- ・決定事項、経緯を発表している。
- ・平成２２年２月から千城台地区学校適正配置地元代表協議会が設置され、３０年１月に両校の統合が合意され、８月に要望書が提出されたことを説明している。
- ・統合スケジュールを記載している。
- ・統合新設校の設置位置を記載している。
- ・児童数・学級数の推計について、平成３２年統合により、新設校は今年度の推計によると、普通学級の学級数は全校で１２学級、児童数が４０４名となることが予測される。
- ・今後の予定として、両校の円滑な統合に向け、学校・保護者・地域・教育委員会関係課で構成する統合準備会を設置し、平成３２年４月の開校に向けて準備を進めていく。
- ・参考資料として、過去の統合実績について掲載している。

なお、統合準備会の設置については、この後の議事のなかでご説明する。

次に資料３：「統合の周知文：千葉市立千城台北小学校と千城台西小学校の統合について」をご覧ください。これは、統合の決定を受けて、その内容について千城台地区の小中学校の保護者や関係地区の皆様にお知らせする周知文（案）である。保護者へは各学校で児童生徒を通じて配布する。また地域の皆様へは自治会長を通じて配布する。

〈山崎議長〉 説明について、質問等はあるか。

〈委員一同〉 質問等なし。

報告③ 「前回協議会以降の動き（２校連絡会等）」について

〈山崎議長〉 次に報告（３）について、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 資料４：「２校連絡会の概要について」をご覧ください。北小と西小の２校連絡会は、次回（第１５回）を明日９月２７日に開催する予定である。南小と旭小の２校連絡会は、第１４回が今月１８日に旭小学校において開催された。今後の方向性として、引き続き２校連絡会を開催して、各校ＰＴＡ同士の意見交換を行い、統合に向けて準備を進めることで確認されている。この後、関係校のＰＴＡの代表から、２校連絡会について詳細な状況等補足があれば、ご説明いただきたい。

〈山崎議長〉 各団体からの報告に移る。前回の第４１回協議会以降の動きについて、２校連絡会以外で、

協議報告のある団体はあるか。

〈自治会関係〉 特になし。

〈学校評議員関係〉 特になし。

〈東小・両中学PTA〉 特になし。

〈山崎議長〉 特にないのであれば、2校連絡会を行った4校のPTA代表から追加の説明があれば伺いたい。北小から追加説明があればお願いします。

〈村山委員〉 北小と西小は、2校連絡会を明日開催する予定であるため、特段資料に示されている事項以外の報告はない。

〈山崎議長〉 南小から追加説明があればお願いします。

〈神谷氏〉 教育委員会と、統合準備会の予定や校名を決定するプロセスについて確認を行った。また、エアコン設置について、統合を理由に見送られないことを確認した。旭小のPTAとは今後とも統合まで、2校連絡会のまま協議を継続していくこと、仕事内容と新組織の確認を行った。統合準備会に出席するPTAのメンバーの確認も行った。

〈工藤委員〉 南小からの説明と重複するところもあるが、資料4のとおり9月18日に旭小学校で実施をし、参加者は両校PTAと教育委員会であったことを報告する。

〈山崎議長〉 ただ今の説明について、質問等はあるか。

〈委員一同〉 質問なし。

〈山崎議長〉 特に質問がないようなので、引き続き協議に入る。

(4) 協 議

〈山崎議長〉 本日の議題は3点である。まずは議題(1)「統合準備会」について、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 資料5:「北小と西小、南小と旭小の統合準備会について」をご覧ください。前回の協議会で提示した資料を基に、その後新たに確認された事項を加えた資料となっている。

- ・1の準備会の役割については、前回の協議会でお示しした内容と変更はない。
- ・2の委員の構成については、(1)～(4)について変更はないが、(2)の地域関係者について、北・西及び南・旭小の青少年育成委員会の部分について、両副会長のご了解の下新たに追加した。
- ・主な検討事項は前回協議会の資料と同様である。
- ・スケジュールについて、第1回の日程が決定したので追加している。北小と西小の統合準備会は、10月24日(水)に北小で開催し、南小と旭小の準備会は11月6日(火)に旭小で開催することとなった。第1回となるので、委員の顔合わせ、校名検討・改修工事のスケジュール等について協議し、情報交換を行う予定である。第2回以降については、詳細な日時は決定していないが、第2回では、校名検討に加え、教材・体操服、保護者会則について協議ができればと考えている。第3回は、年度が変わり、新しい委員の顔合わせ、校名調査報告、各進捗状況について、学校や地域、PTA、教委それぞれから状況報告していただく予定である。北小と西小は、最後が第5回、南小と旭小は最後が第6回になると思うが、最後の回で閉校式、開校式等の準備状況の確認、各進捗状況の報告を行いたい。

〈山崎議長〉 ただ今の説明について、質問等があればお願いします。

〈神谷氏〉 南小と旭小の2校連絡会からこの場をお借りして、地域の皆様に伺いたい。2校連絡会で

校名を決定するプロセスを確認したが、来年度5月に校名募集のアンケートを千城台地区の小・中学校と地域に配ると教育委員会から説明を受けている。また、市政だよりも市全域から募集をかけることになる。通常の流れだと、集計を教育委員会に実施していただき、それを市で協議して校名が決定されると聞いている。そこで、南小と旭小の統合の要望として、校名・校章・校歌については、地域の方々の要望を取り入れてほしいと要望書でもふれている。2校連絡会としては、一度集計された時点で、集計の報告を受けて、そこで、市に任せるのではなく、一步踏み込んで校名の決定に参画していきたいと考えている。それを、学校関係者としては、学校から聞いて伺い知ることはできるが、地域の方々はどのようにかわっていくのか、5月のアンケートで校名について市に任せるといことになるのか、確認したい。

〈山崎議長〉 5月の校名アンケート募集結果に対する学校名の決定を市に任せることについて、疑義があるということか。

〈神谷氏〉 アンケート集計結果の報告を踏まえて、その後に再度希望が出せるようなプロセスにしたいと考えている。最終的に、提出できるのはあくまで要望で、市の公共施設なので市の方で最終的に決定されると思うが、その前段階として再度要望という形でかかわってきたい。

〈山崎議長〉 本協議会は本日で終了になる場合がある。この後の事をどのように決めていくのか、事務局はどう考えているか。学校名に対して、地域の方々の募集もかけていながら、最終的な決定の部分では、今日で協議会が終了してしまうと、発表する場や決定する場など、伺う場所がないと思われる。

〈事務局〉 募集結果については、統合準備会で報告させていただく。

〈神谷氏〉 恐らく統合準備会から地域の方へは回覧版などを通じてお知らせされると思うが、地域の方たちも校名の最終決定の前段階と一緒に関わっていく意思があるか確認したい。

〈角田会長〉 統合準備会のなかで、どのように決定していくイメージなのか。

〈神谷氏〉 統合準備会の第1回は11月だが、そこに地域の方（自治会）は入っていない。自治会の皆さんが一番地域のことを承知している。

〈山崎議長〉 南小と旭小が地域を交えて校名検討する場合、北小と西小も地域を交えることになるのか。

〈神谷氏〉 前回2校連絡会で協議した中で、南小と旭小の統合新設校と、北小と西小の統合新設校を、同じアンケートの中で2校それぞれの名前を書いてもらう形式がよいのではないかと考えている。

〈角田会長〉 ご希望の内容は理解できるが、急な質問であるので、統合準備会には自治会が入らないということではいか。

〈事務局〉 資料のとおり、両副会長の参加のみである。

〈角田会長〉 校名の募集は市政だよりの他に、千城台の地域にも募集をかけるということか。

〈事務局〉 協議会だよりを配布しているのと同じ流れでアンケート用紙を配り、募集を実施したい。具体的には、別途会長とご相談したいが、併せて学校でも実施をする。

〈角田会長〉 自治会会長の会議等の場で各会長に依頼をしていくイメージか。

〈事務局〉 そのように考えている。

〈角田会長〉 提出先はどうなるのか。

〈事務局〉 教育委員会に直接FAX等で送付いただいてもよいし、学校にもアンケート用紙回収箱を設置する予定なので、そちらに投函いただいても構わないと考えている。

〈角田会長〉 小中学生のいる家庭は、学校の箱でよいのであろうが、自治会関係となると、どのように提出いただくか。

- 〈事務局〉 学校に近い方は、回収箱への投函でもよいように各学校へは願います。また、学校に來れない方はアンケート用紙を委員会にFAXや電子メール等で送付いただく。また電話での受け付けも検討する。
- 〈角田会長〉 回答する方法としては、校名を書いた用紙は封筒等に入れるのか。そのまま提出でよいのか。
- 〈事務局〉 そのまま折って提出いただければ差し支えない。専用封筒は特段用意しない。
- 〈角田会長〉 自治会関係は、自治会の役員会で収集できるかもしれない。
- 〈事務局〉 校名については、全員が必ず提案するものではなく、アイデアがある方は出していただく任意の提出である。今までに実施されている方法は、先ほどのように校名アンケート用紙を投函する箱を学校に配置するやり方である。花見川地区の事例では、自治会の要請に基づいて、商店街のなかにも1箇所回収場所を設置した。公民館にも1箇所設置した。何十カ所も設置はできないので、学校や公民館くらいの場所に設置し、締め切り後に企画課が箱ごと回収する。アンケートは提出を強制するものではない。少数ながら、教育委員会へ直接FAX等で発送された方もいた。
- 〈山崎議長〉 神谷委員のご意見としては、回収したアンケートについて市で決定するのではなく、協議会のような場で決定してほしいということか。
- 〈神谷氏〉 協議会はおそらくタイミング的に難しいと思われるので、準備会になるのか、2校連絡会になるのか分からないが、集約された校名の投票候補を基に校名を決定するプロセスである。それを地域の自治会等の方にもお配りするべきなのか、学校関係者だけで決めていいのかということである。
- 〈角田会長〉 これまでの統合校の事例で、今のご意見に関して地域が校名検討に参画した事例はあったのか。
- 〈事務局〉 今までは市が集計して、校名検討委員会を市内部で組織し、検討する。一般的には、そのなかで上位となっている校名候補が決定されることが多い。ご心配されているのは、これまでは1校の校名募集のみで実施してきたのが、今回2校同時に応募するということかと思う。保護者の間で同じ名前の取り合いにならないように、調整を図りたい。市としてもその意見を参考にしながら、校名検討委員会に提起したいと考えている。
- 〈村山委員〉 参考として伺いたいのが、市全体として公募するなかで、地区に関係のないところから応募されたことはあったのか。
- 〈事務局〉 市政だよりにおいて募集をするが、これまでの事例としては実際に他地域から応募があったケースはかなり少なかった。教育委員会としても、この地域の歴史や、昔の名前等について、市としてどのような名前がふさわしいか研究する。それも校名検討委員会の資料として提出することとなっている。
- 〈奥田委員〉 集計された結果を情報公開するのは良い事だと思う。自治会の関わり方は、自治会所属の委員それぞれに意見があると思うが、募集があれば自治会関係者も個人として校名を応募すると思うので、そこからさらに自治会単位へ下ろしてという手順を踏んでいると、決定に時間がかかる。自治会までは参画しなくてよいのではと思う。当事者の方たちにお預けして決定していただいて、何かあれば意見するという方向性で構わないと思う。
- 〈佐々木委員〉 校名検討のアンケートをとった後に、統合準備会で決めてもらっても差し支えないと考える。市で決定する前に参考までに報告してもらえればよいのではないか。必ずしも数が多い候補で決定されるものでもないのであろう。ただ、自治会関係者が関わっていないということについては、自治会が良ければ特段問題ないと思う。

- 〈高野委員〉 学校関係者にお任せする。
- 〈本田委員〉 自治会として小学校の名前に強くこだわる理由がない。個人個人に思いはあるかもしれないが、組織としてどうしたいというものはないと感じている。自治会内のアンケート全戸配布については協力できる。
- 〈時松委員〉 対象校だけで決めるのではないということによいのであれば、市の提案、4校の提案、順位が1位の候補といったなかから決定されていくイメージなのか。
- 〈角田会長〉 多くの校名候補があって、例えば上位1～5番目までを参考に情報として報告して、そのなかでどうするかというイメージだろう。
- 〈時松委員〉 今までの議論だと、1位の校名よりも3位の校名がふさわしいと4校の方が考えたとしても、対象校の考えが優先されるのではなく、総合的に勘案された市の提案で決まるかもしれないということだろう。
- 〈事務局〉 全ての資料を通して決定していく。
- 〈山崎議長〉 よろしいか。
- 〈神谷氏〉 承知した。
- 〈山崎議長〉 第1回統合準備会の開催に向けて、関係者の皆様の準備をお願いします。

議題② 「今後の協議の進め方（跡施設活用検討）」について

- 〈山崎議長〉 続けて、議題（2）「今後の協議の進め方（跡施設活用検討）」について協議する。角田会長より説明をお願いしたい。
- 〈角田会長〉 資料6：「今後の協議について（跡施設活用検討）」をご覧ください。これまでは、学校適正配置地元代表協議会として、どこに統合校を設置するかということを経験してきた。北小と旭小の建物を統合校として使用するということが決定したので、これからは跡地利用をどうするかに議論が移っていくこととなる。この資料6は私案であるので、委員の皆様からご意見を伺いたい。私の案としては、跡地利用は地域全体に関わることであるので、組織の委員構成の案として、町内自治会連絡協議会から3名、町内自治会を代表して5名、東西南北と御成台の自治会からも1名お願いしたい。
- また、地域で様々な活動をしている社会福祉協議会が2団体あり1名ずつ、青少年育成委員会も2団体あり1名ずつ、民生委員も2地区あり、それぞれ1名ずつ、地域のスポーツ振興会の各1名ずつ参加いただき、合計16名としている。PTA会長と学校評議員の方々については、これから新しい学校づくりに力を注いでいただくためにメンバーには入れていない。お示した案で跡地利用を協議していきたいが、如何か。
- 〈山崎議長〉 ただ今のご説明等で何か意見や質問等はあるか。
- 〈本田委員〉 現在南小では、週末にグラウンドで少年野球で使っている。そういった実際に使用している団体の意見や希望は反映されるのかどうか。スポーツ振興会に含まれるのか。
- 〈角田会長〉 振興会に含まれることを想定している。
- 〈神谷氏〉 協議会の場合、会議で決まったことを学校として、保護者へ報告をしていたが、このメンバーの場合は、協議の内容の報告や意見等はどのように伝達されるのか。
- 〈角田会長〉 まだそこまでは検討していない。まずは、跡地活用の検討会議のメンバーを（案）のとおりでよろしいかという段階である。会議の中身をどのようにお知らせするかはこれから検討する。
- 〈村山委員〉 良いアイデアを出してくれそうな方を選出したい。例えば、建物や施設に精通した地域の方の意見があってもよいと思う。

- 〈角田会長〉 学校の統廃合については、教育委員会が事務局となってきた。跡地利用については、市の資産経営課が窓口になる。市有財産の全体的な管理を担っている。この部署が跡地活用の協議に事務局として参加する。教育委員会も参加はするのか。
- 〈事務局〉 参加する。
- 〈田邊委員〉 先ほど学校開放の代表者は参加しないのかということ、スポーツ振興会が代わるとのお話があったが、学校開放とスポーツ振興は別の管理になっている。体育館を使用しているなかで、この先どうなるのか心配されている声も耳にするが、問題ないか。
- 〈角田会長〉 当然メンバー以外の色々な方からの様々なご意見に耳を傾けていながら、会議のなかで要望の中に盛り込むことは行う。このメンバーだけで全てを決めて要望を出すということではない。現在、南小と西小について、年間でどのような方がどれくらい使っているかを教育委員会を通じて調査してもらっている。新たに2つの学校の利用価値が出てくるということで、例えば、(案)の中で打診はしていないが、2校が使えるなら、社会福祉協議会としても跡地活用の意向を検討するため、色々情報提供してほしいと依頼されている。様々なご意見をいただければ、要望の中に盛り込めるよう検討していきたいと思う。
- 〈山崎議長〉 資料の委員構成は案だと思う。他にもこういう委員がいた方が良いというご意見があれば、提案いただきたいが如何か。
- 〈石原委員〉 構成を一見すると、年齢層が高くなる傾向になりそうだ。特定のどの団体というわけではないが、少し若い世代の委員も参加してもよいのではないか。何かしら、若い方に参画いただく構成にできるとよいと思う。
- 〈山崎議長〉 会長の案としては、それぞれの会長職と記載があるが、代表ということであれば若い方でも参画できる余地はあると思う。
- 〈石原委員〉 構成的に、ベテラン・中堅・若手の適任のメンバーが顔を合わせるような会議にして、いろいろな事を模索しながら、2校の跡地を有効活用するのだから、千城台地区の活性化につながるような活用にしていけると良いと思う。
- 〈角田会長〉 ご意見はごもっともであり、正副会長での検討の中でも、同様の考えが出てきたところではある。
- 〈山崎議長〉 学校開放の使用者の声や若い方の参画をいただいた方がよいというご意見が出てきている。
- 〈角田会長〉 P T A関係の参加の希望はあるか。
- 〈山崎議長〉 P T A関係の委員の方のご意見は如何か。
- 〈神谷氏〉 協議の流れが直接的に見えてくるほうが良い部分もあるかもしれない。
- 〈角田会長〉 現段階として参加いただくのは問題ないが、地区のバランスを如何に考えるか。全部のP T Aに参加いただくのかということは整理する必要がある。
- 〈神谷氏〉 無くなる学校の立場としては、このあと学校施設がどうなるかということに気をされている方も多し。情報が上手く伝わるようにはしたい。
- 〈日向委員〉 可能性として、地域の子どもたちが活用する場合もあり得るので、参加しても良いかとは思っている。ただ、あくまで要望書として提出するところまでに留まるものであり、必ずしも決定機関になるものではないのであろう。
- 〈角田会長〉 要望としてまとめたものを市で検討して、何回かやり取りはあるだろう。
- 〈事務局〉 市の担当としては資産経営課となるが、教育委員会として立ち会ってきた過去の事例では、地域から要望が出されて、資産経営課のほうで、要望の項目ごとに検討結果を作成し、地域の説明会等の場で示されていくことがあった。
- 〈角田会長〉 教育委員会が関与して把握している範囲でよいが、例えば要望事項の検討結果についての

やり取りがあった後に新たに別の項目が追加された事例はあったのか。

〈事務局〉 これまでの事例では、最終的な合意に至らず、利活用検討中になっている用地はある。

〈角田会長〉 いずれにせよ、進め方は資産経営課が入らないと議論できないだろう。

〈神谷氏〉 今後売却する土地なのか、建築制限等がある場所なのか、所有者によって、建物の用途に制限が掛かることもあると聞いたがどうか。

〈事務局〉 資産経営課の今後の判断になるが、確実に言えるのは、両校の土地は美浜区のように千葉県へ返還する用地ではないということだけはいえる。

〈本田委員〉 委員構成は案のとおりでよいと思う。実際にこのメンバーでスタートしてみて、そのなかで若い人の意見を入れるようにするとか、こういう団体を入れようとか、毎回ではなく定期的に入れようとか、途中で変更してもよいのではないか。メンバーを限定するとなると異論も多いと思うが、柔軟に意見が取り入れられるのであれば、これでスタートしても良いと思う。

〈高野委員〉 基本的には案のとおりで良いと思うが、これまでの実績としてはどのようなメンバーで協議されてきているのか。

〈事務局〉 今までは跡地利用の要望書提出までは教育委員会が関わってきたこともあり、地元代表協議会と同じ構成でそのまま協議がされてきた事例が多い。

〈阪下委員〉 南小に避難所として避難する自治会の方が、跡地がどうなるか心配する声は非常に多い。その方たちのことも考慮してほしい。

〈高野委員〉 これまでの事例とは異なり、千城台地区では、南小と西小の2校の活用検討を同時に並行して行うことになるのだろう。

〈山崎議長〉 適正配置の議論においても、協議会当初はまとまらなかったもので、分科会として2校連絡会を設置した経緯があった。もしかしたら、跡地利用の検討においても、細かく要望事項を出していくのか、地域の方でもっと話し合った方がよいという流れになるかもしれないし、そこは開催してみないとわからない。追加のメンバーとして足してほしいということがあれば伺いたい。

〈奥田委員〉 まずはこのメンバーでスタートしてみないと進まないと思う。

〈佐々木委員〉 わざわざ変えなくとも協議会と同じメンバーという考え方もあるのではないか。

〈奥田委員〉 実際に施設の使用を希望している団体の声が切実だと思う。PTAはこれからの学校づくりを検討していただき、並行してこのメンバーで跡地利用も協議することで、空き地となる期間を短くすることが重要である。それぞれ分けて検討した方が、千城台地区としても活性化が迅速に進むのではないか。まず、スタートしてみて考えてはどうか。

〈鶴岡委員〉 他市では跡地を道の駅として活用して成功した事例がある。すべての教室が活用されている。立地状況はあると思う。東京では活用しきれていない事例もあるようだ。施設の管理をどうするかということもあるだろう。活用と管理も当然考えるべきことである。メンバーについては、案のとおりで良いと思う。

〈山崎議長〉 案のとおりメンバーとしてよろしいか。

〈委員一同〉 異議なし。(了承)

〈山崎議長〉 それでは角田会長の提案どおり、次回からは千城台西小学校と千城台南小学校の跡施設活用について協議を行う、新しい組織を立ち上げることにする。よって、地元代表協議会は本日が最後となるので、議題3の協議は割愛する。これまでの8年間、協議をいただき皆様には感謝申し上げたい。子どもたちのためにという皆さんの思いが詰まった新しい統合校づくりと、千城台地区の活性化のために地域を盛り上げていきたいという思いは地域でも一杯で

ある。協議会設立準備から数えると10年かかっているとも聞いており、事務局にも感謝する。それだけの思いでできている協議会だったと思う。

〈神谷氏〉 確認したいが、これまでの協議会のなかで中学校の統合は見送られてきた。平成32年度に2学級となる学年が発生する事が見通されている状況で、2学級が出た時点で統合の議論を再開する事だったと思う。また、子どもたちに統合を2回経験させないということも協議の中で決められてきた。実際に再来年度に現在の小学校5年生について、中学校段階で2学級となることが見通されたなかで、どのような認識でいけばいいのか。推計値であるので、実際はどうかかわからないかとは思いますが、実際に学級数が確定した時に改めて考えるという理解でよいか。一方で、統合を2回経験させないという方針を堅持する場合、これから10年間は統合の議論がないということによいか。

〈事務局〉 これまでの学校適正配置の取組みは、市としては第2次の取組みと位置付けている。第2次のなかでは、小規模校が複数校近接している地区に取り組んできた。10年間の取組みで、13の小学校を8校にすることができた。この千城台地区での取組みが第2次での最後であると認識している。現在教育委員会では、第3次実施方針を策定し、取り組んでいるところである。第3次実施方針では、中学校でこの5年間以内に全校の学級数が12学級以下になることが推計されているのは、全体の45%になる。現状の企画課の推進体制では、そのすべてに対応していくことは現実的に困難である。4月に策定した第3次方針では、同じ中学校のなかでも、全校で5学級以下が今後5年間で市内に6～7校生じることが推計されており、これらの中学校に対してまずは取り組んでいくこととしている。千城台地区については、当面はそこまでの減少傾向はないだろうと見込んでいる。現在は全校で5学級以下の中学校を優先度Iとして位置づけ、取り組みを進めている。

〈角田会長〉 平成32年4月に西小を仮校舎として、北小と西小が統合する。統合校開校前に、西小の校舎は改修工事などが予定されているのか。

〈事務局〉 まず、西小の校舎は、平成33年度以降は学校教育の用途を終えることになり、その校舎に大規模な改修工事を施工することはできない。ただ、冷房については整備することになっている。改修は特別支援学級の児童が1年間通う校舎となるため、特にことば教室に配慮しながら、絨毯をひいたりパーテーションを設置したりするなど、1年間は学校生活を送れるように改修工事を行う。普通教室の改修工事は行わないものと認識している。

〈角田会長〉 特別な支援が必要な児童が利用する教室の改修工事は、いつ頃施工する予定なのか。

〈事務局〉 平成32年3月が北小から西小への移転の時期となる。これまでの事例では、移転の3月末の1週間の間に改修工事を施工したケースもある。これは、児童が授業中の工事を避けるためである。具体的な工事期間は、改修工事の規模にもよるため、担当課である学校施設課に確認し、工期が前倒しになることもある。

〈角田会長〉 改修工事と位置づけられる整備は、冷房の設置と、特別な支援が必要な学級の教室のみであるという理解でよいか。

〈事務局〉 そのとおりである。

議題③ 次回開催日時・場所について

※協議割愛

(4) 連絡

・本日協議会の状況については、各所属団体への伝達と意見集約をお願いします。

- ・後日議事録要旨（案）を送付させていただき、確認終了後にホームページで公開する。
- ・本協議会は本日の議事を以て終了し、今後は会長にお示しいただいた案を基に新たな協議会を設立し参加いただくことになる。

(5) 教育委員会挨拶（伊原企画課長）

この千城台地区の学校適正配置地元代表協議会の終了にあたって、これまでの皆様の多大なご協力に対して、教育委員会を代表して御礼申し上げたい。平成22年2月20日に設置された地元代表協議会も今回で42回目をむかえ、その間に千城台地区の7つの小中学校のうち、北小と西小及び南小と旭小の統合が合意された。この地区には2つの中学校と3つの小学校で併せて5つの学校が設置されることとなった。平成32年4月及び平成33年4月に、それぞれ統合新設校が開校することとなった。これまで多くご協力をいただいた、角田会長、大澤副会長、山崎副会長をはじめ、毎回夜遅くまで熱心に協議いただいた協議会委員の皆様、毎回夜遅くまで傍聴いただき応援して下さった多くの保護者の皆様に改めて深く御礼申し上げます。千葉市ではこれまで、8つの統合新設小学校、3つの統合新設中学校を開校しており、統合によって学校生活が非常に活性化され、統合校の子どもたちは新しい友達と元気に学校生活を送っていることが、その後のアンケート調査等で報告されている。千城台地区の2つの統合新設小学校は、千葉市で9番目、10番目の開校となる。子どもたちが元気に明るく夢広がる学校生活を送れるよう、教育委員会として全力をもって円滑な統合に向けて準備を進めていく。この2つの統合新設小学校をはじめ、千城台地区の5つの小中学校が地域活性化の中心となって、地区がますますご発展されるよう、これからも教育委員会として応援していきたい。今後は、現在の地元代表協議会に代わる新しい組織を立ち上げ、跡施設活用に関する協議を進めていただくこととなった。担当となるのが教育委員会から変わるが、これまでの協議内容をしっかりと引き継いでまいりたい。これからも千城台地区の子どもたちのために、皆さまには様々な御立場からご支援・ご協力をいただけるようお願い申し上げます。

(6) 会長挨拶（角田会長）

本日は様々なご意見を頂戴し御礼申し上げます。本日の協議で度々紹介されてきたとおり、平成22年の協議会設置から、これまで様々な委員の改選があったわけであるが、その都度色々なことを乗り越えながらここまでやってきた。山崎副会長をはじめ、初回から委員を務めていただいた5名の方については、非常にご苦勞をされてきたと思う。これからは、この協議会のメンバーとしての席は無くなるかもしれないが、学校関係者については、統合準備会等を通じてできるだけ良い学校づくりができるよう力を注いでいただきたい。また、跡地利用協議については、自治会に加わっていただき、いろいろな方に意見を伺いながら、有効な跡地利用ができて良かったと言っていたような要望書をまとめていきたい。これからも皆様のご協力をお願いしたい。